

東北大学環境報告書 2015 に対する評価

東北大学環境報告書評価委員会

本報告書は、環境にかかわる東北大学の多岐にわたる活動内容について、体系的かつ網羅的に記述した報告書である。データが適正に開示されて評価がなされており、事業所の報告義務を十分に果たしている。2015年版は一般市民にも分かりやすい報告書という前提で編集したため、各章において文章が簡潔になり、図表等の使い方も適切で、これまでよりも内容が伝わりやすくなったという印象を受けた。また、2014年版に対する本評価委員会の評価意見が十分に反映されており、年度毎に報告書の質が向上し、学内外において有益なものであると思われる。

最後に、震災で損壊した研究棟の竣工等の復興が進む状況のもと、より精緻なデータの入手・評価を行い、本報告書をまとめられた環境報告書作成専門部会（2015年度）のご努力に深く敬意を表する。今後、本報告書がさらに充実し、東北大学の環境マネジメントにさらに有効に活用されることを期待し、本委員会で出された主な意見を以下に列挙するので、参考にしていただければ幸いである。

- 1) 一般市民にとって聞きなれない用語（シーズ、認定エコ商品、圃場、グリーストラップ等）が散見された。さらに、「環境マインド」のような分かりにくい表現について、その詳細が初出時ではなく後述されている例も見受けられた。これらに対しては、補足説明や注釈の充実、平易な言葉への言い換え、系統だった文章構築等、さらなる改善を期待する。
- 2) 環境目標については重点目標の設定理由を記述するのが望ましく、目標達成に問題がある領域は、現状及び原因の指摘に加え、可能な限り、対応策の提示まで踏み込んで言及すべきである。特に、電力モニタリングシステムの活用では、平成26年度冬季の最大使用電力（月別）においてガイドライン値を超える場合が見られたので、ピーク電力値を下げるための、今後の具体的な取り組みと関連させて記述した方が良いと思われる。
- 3) 仙台市営地下鉄東西線の運行（平成27年12月6日開業）や新キャンパス移転等が東北大学の環境状況に及ぼす影響、ならびに、キャンパスと周辺地域とのつながりについて、何らかの形で言及することが望ましいと思われる。
- 4) 環境関連の教育の中で関連科目演習や実習が一覧表で示されていたが、そのうちの幾つかを環境トピックとして例示したり、さらに、主要キャンパス以外における取り組みの紹介等があれば、より充実した内容になると思われる。また、掲載されていた環境研究の大半は科学的・工学的なものであったが、今後は、社会科学・人文科学の分野における環境研究の寄稿も期待したい。